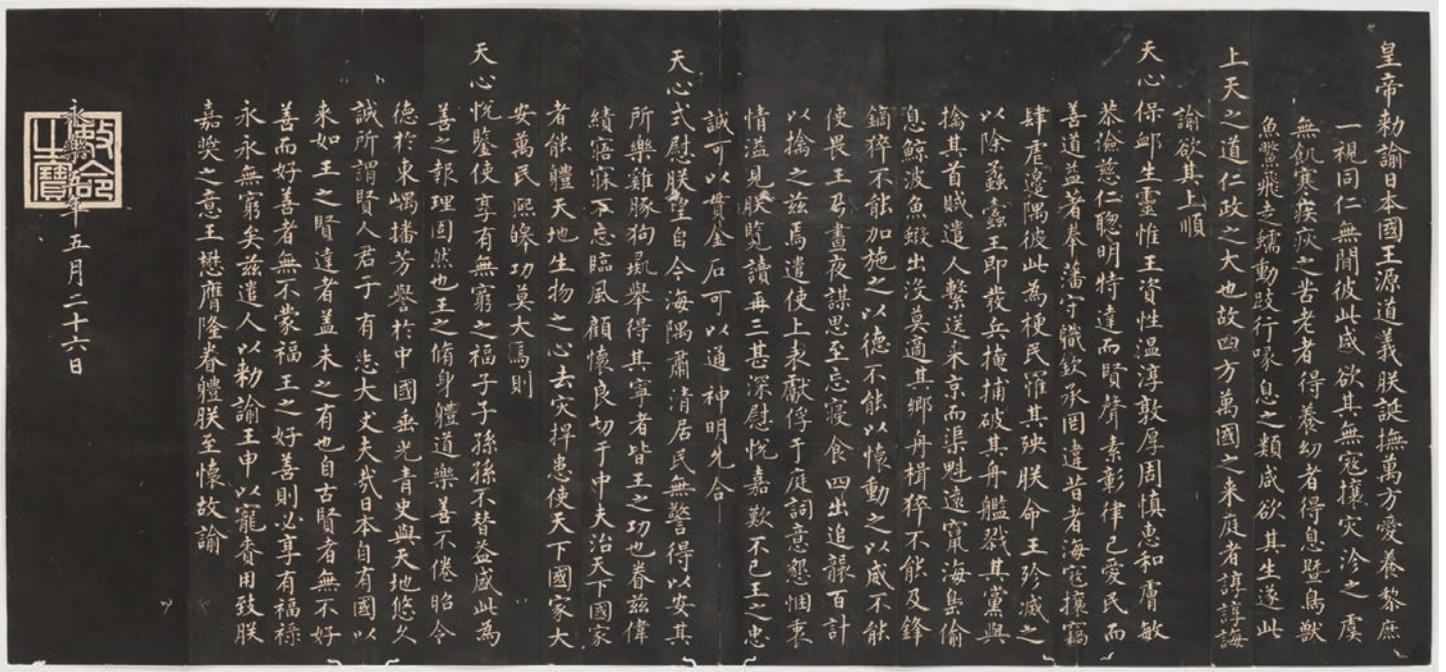


東京大学史料編纂所附属 画像史料解析センター 通信

第103号 2024年1月

目次	
卷頭図版 本所所蔵「永楽五年明国書拓本」	文献案内 ……20
永楽五年付足利義満宛永楽帝勅諭諸本について (岡本 真・須田牧子) ……2	山口県文書館所蔵の長州藩版板木・木活字 (箱石 大) ……21
『晴富宿禰記』紙背文書にみえる「洛中図」 — 洛中洛外図研究と史料の読み直し — (藤原重雄) ……14	活動抄録 ……24



本所所蔵「永楽五年明国書拓本」
 明の永楽帝から足利義満へ宛てた勅諭の模刻本。応永13年(永楽4、1406)に義満が派遣した、堅中圭密を正使とする使節は、翌年、貢物とともに、捕獲した倭寇道金らを永楽帝に献じた。本勅諭はそれをうけて発給された、義満の倭寇討伐と捕虜の献上を嘉し、その賢徳を讃えたもの。堅中らの帰国に同行した明使がこれを携えて来日すると、義満は北山第で引見した。下段右は4行目に存する貼紙の箇所を拡大(貼紙との境目を強調するため明るさ・コントラストを調整)。同中央・左は底本に虫損が存したと考えられる箇所の拡大。(本文4頁参照)

